

医療機関名 MCBIクリニック
採血日 2018年9月10日
検査受診者ID MCBI000000000001
氏名 MCBI 知 様

MCIスクリーニング検査結果

【注意事項】判定結果をご覧になる前に必ずお読みください。

本検査は、血液中の特定のタンパク質を調べることにより、アルツハイマー型認知症(アルツハイマー病)の前段階である軽度認知障害 (MCI)のリスクを統計学的に調べるものです。

早期に発見するためのスクリーニング検査ですので、本検査の判定結果で診断が確定するものではありません。

- ・本検査の血液中のタンパク質量は、栄養状態が悪い場合や自己免疫疾患など炎症性疾患において影響を受けることがあります。
- ・認知症の最大のリスクは「加齢」です。若齢者(40歳代まで)の検査結果についてはMCIとは異なる疾患による影響を考慮した評価が必要な場合があります。

MCBIの 様の検査結果

軽度認知障害(MCI)リスク判定

判定	MCIリスク値	測定項目			MMSE
A	0.10	APOA1	TTR	C3	30
		180 mg/dL	25.0 mg/dL	1.50 Unit	

あなたは A 判定です。リスク値は 0.10 です。

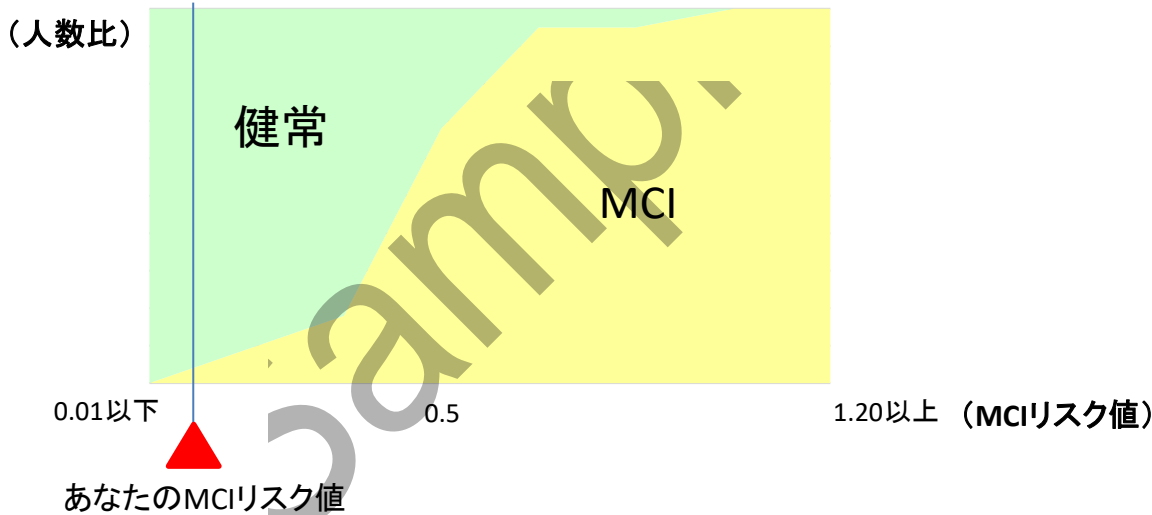
MCIのリスクはほぼありません。

今後も健康的な生活を心がけましょう。

1~2年に一回の定期的な受診をお勧めいたします。

ご自身の状態を定期的に把握して予防に努めましょう

下の図は、健常もしくはMCIと診断された方の人数比(緑:健常, 黄:MCI)を表します。
▲はあなたのリスク値です。▲上の線で、あなたのリスク値での健常もしくはMCIの人数比がわかります。



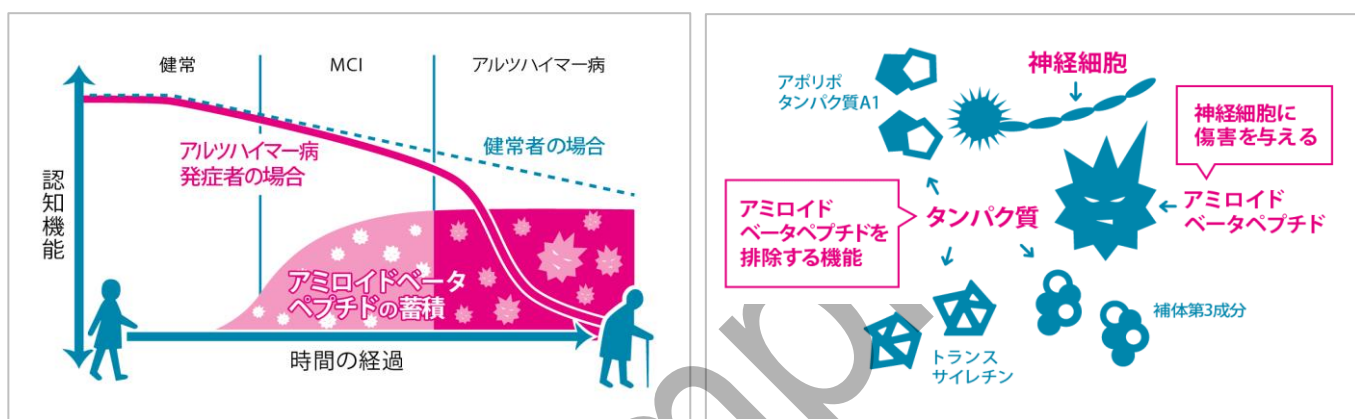
判定	リスク値	説明
A	0.4未満	MCIのリスクはほぼありません。 今後も健康的な生活を心がけましょう。
B	0.4~0.5	MCIのリスクは低めです。 健康的な生活を意識して、MCIのリスクを減らしましょう。
C	0.5~0.6	MCIのリスクは中程度です。 生活習慣を見直し、直ちに予防に取り組みましょう。 物忘れなどで気になることがありましたら、専門医に診てもらいましょう。
D	0.6以上	MCIのリスクは高めです。 専門医による詳細な検査・診断を受けられることをおすすめします。

《注意事項》

- ・本検査は認知症の前段階であるMCIのリスクを判定するものです。
- ・MCIの診断を行うものではなく、リスクを判定する検査ですので、認知症予防に向けたひとつの目安となります。
- ・MCIリスク値は、測定項目の数値の組み合わせにより算出します。測定項目の値は参考値となります。

◆軽度認知障害(MCI)とMCIスクリーニング検査について

- MCIは認知症ではありません。認知症になる前の状態です。MCIの段階で適切な介入を行えば、認知症の発症を予防もしくは遅らせることができると分かってきています。
- 認知症で6～8割を占めるアルツハイマー病は、その原因となるアミロイドベータタンパク質(Aβ)が脳内に少しずつ蓄積することにより発症します。Aβは神経細胞にダメージを与え、記憶障害や認知機能の低下を引き起こします(下図左)。
- MCIスクリーニング検査は、Aβを脳内から排出したり、毒性を抑制したり、炎症を和らげるなど神経細胞へ与えるダメージを抑制する3種類のタンパク質の量を血液で調べることにより、MCIのリスクを判定しています(下図右)。



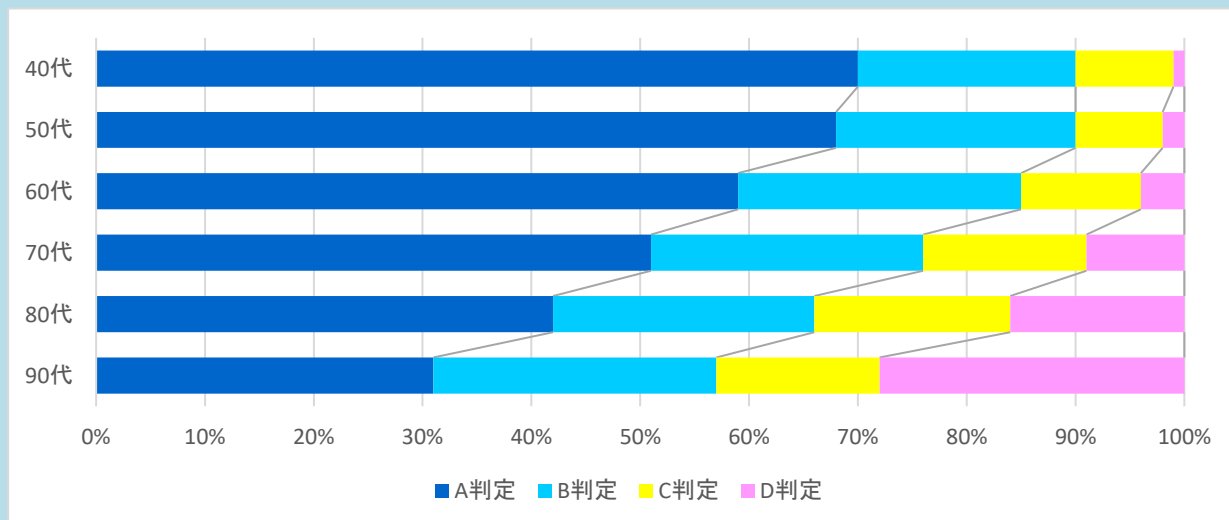
測定項目	標準的な範囲*	説明
ApoA1 (アポリポタンパク質A1)	140-195 mg/dL	ApoA1は、Aβの蓄積や毒性を抑制し、神経細胞の炎症を和らげることが報告されています。ApoA1量の減少は、神経細胞の炎症を悪化させるといわれています。
TTR (トランスサイレチン)	21.9-33.8 mg/dL	TTRは、プレアルブミンとも呼ばれています。TTRはAβに結合して、その毒性を抑制します。アルツハイマー病の他にも、うつ病や統合失調症などの精神疾患においてその量が低下することがあります。
C3 (補体第3成分)	0.99-2.86 Unit	C3は、ミクログリアという神経細胞の維持に働く細胞の活性化と密接な関係にあります。C3の量は、Aβの蓄積や神経細胞の炎症状態を間接的に観察する指標になります。

* 検査受診者約16,000人を対象とした平均値±標準偏差を標準的な範囲として示しています。一般の血液検査の基準値とは異なりますのでご注意ください。

◆軽度認知障害(MCI)とMCIスクリーニング検査について

MCIスクリーニング検査における世代別判定結果の分布

* 検査受診者約16,000人を対象とした分布



- 加齢に伴ってA判定が減少し、D判定が増加します。
- 認知症は高齢になるほど発症のリスクが高くなる疾患です。年齢を重ねることで誰にでも起こりうる身近な疾患と言えるでしょう。
- 最近では糖尿病や高血圧、生活習慣病も認知症のリスク因子と考えられておりますので、若いうちから予防に積極的に取り組むことが大切です。

生活習慣の改善が認知症予防に有効です

- 適度な運動
- バランスの取れた食事
- 質の良い睡眠
- 趣味を楽しむ



検査結果は予防のヒントです

健康な方でも高齢になるにつれてMCIや認知症のリスクは高まります。

検査結果にかかわらず、生活習慣を見直し予防に取り組みましょう。

健康診断と同じように、定期検査を受けることでご自身の変化に早い段階で気づくことができます。